

科目名	歌唱研究 I ～VI	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1, 2, 3

＝授業科目の目標＝

自然な呼吸法による発声を習得する。
 学生の個性、経験に応じて、主に基礎的な技術の向上に努める。
 読譜力の向上をめざし、耳コピーではない自分の歌を歌うことができるようにする。

＝履修の条件と学習の方法＝

体調管理に留意して、健康な状態で臨むこと。
 時間を厳守し、遅刻や欠席の場合は連絡すること。
 日々の練習を怠らず、図書館を活用するなどして、必ず予習をしてくること。またレッスンで学んだことを復習することも大切です。

＝授業内容＝

(1年次)

- 1期 学生の個性、進度をふまえた上で、基礎となる自然な発声法を習得させる。ヴォカリーゼによる練習曲 (Concone 等) を適宜用い読譜力の向上をめざす。
- 2期 基礎となる発声法の習得をしながら、更に読譜力、表現力を向上させる。

(2年次)

- 3期 さらに発声法の習得をしながら、歌曲等多くの作品に触れて音楽性を身につけてゆく。
- 1期 基礎となる発声法の習得に常に気を配りながら、より多くの作品に触れ、歌うことの表現力の向上をめざす。

(3年次)

- 5期 さらなる声の成熟を求め、豊かな表現力を伴って、歌えるようにする。
- 6期 広く歌曲等を歌っていくと共に、ミュージカルナンバー等も取り入れていくことがある。
地声から頭声までムラのない声を深く追求してゆく。

(4年次) ※「歌唱研究VII」「歌唱研究VIII」は2017年度以降入学生開講予定科目

- 7期 学生それぞれの個性、歌唱レベルに合わせて、ミュージカル作品 (1960年代まで) を原語 (英語) で取り上げる。これまで培ってきた発声法を伴わせながら、歌唱時における正しい英語の発音、発語の基礎を学び、更に実践的な歌唱表現法を身に着けることを目標とする。
- 8期 7期に引き続き幅広いミュージカル作品 (1980年代以降) を原語 (英語) で取り上げる。原語歌唱に更に磨きをかけ、発声法、発語法を現在のミュージカルシーンに対応させるべく、それぞれの学生の個性と結び付けてグローバルスタンダードな歌唱表現を目指す。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

学期末定期実技試験により評価する。
 定期試験の無い学期は、各担当教員が出席状態、積極性などにより、総合的に判断し、評価する。
 出席日数が3分の2に満たない場合は受験資格喪失となる。

＝その他＝

特になし